

基礎から身につく 財務の教室



八木正宣●やぎ・まさのぶ
税理士事務所SBL 所長・税理士。
会計事務所等での勤務を経て平成
16年税理士事務所SBLを開設。
企業支援と相続関連業務に強み。

第16回 今回のテーマ

資金繰り表

今回は、資金繰り表の記載内容や分析方法についてみていきます。

Q1 資金繰り表って何？なぜ作成する必要があるの？

会社では、仕入代金等の支払日に資金が不足しないよう、入出金について予想を立て、残高不足が見込まれる場合には借入れを行うなど事前に対策を立てます。こうした資金繰りを把握するために作成されるのが資金繰り表で、一定期間の収入と支出を集計し、資金残高の推移を把握することを目的とします。

「勘定合つて銭足らず」という言葉があるように、たとえ業績が良くても売上代金の回収が遅れが生じれば資金不足を招くことがあります。利益が出ているからといって資金繰りを怠ると黒字倒産になりかねません。会社の存続に影響するという意味で資金繰り表はとても重要な会計資料といえるでしょう。

●資金繰り表

項目	12月(実績)	1月(予定)
前月より繰越①	40	21
営業収入	現金売上	23
	売掛金回収	124
	手形取立	41
	手形割引	69
	その他の収入	12
営業収入 計②	279	332
営業収支	現金仕入	21
	買掛金支払	67
	手形決済	53
	人件費	48
	諸経費	65
	設備支出	0
	税金等の支払	16
営業支出 計③	272	376
営業収支④=②-③	7	-44
財務収入	借入金	100
	その他の収入	0
	財務収入 計⑤	0
	借入金の返済	24
	その他の支出	2
財務支出	財務支出 計⑥	26
	財務収支⑦=⑤-⑥	-26
経常収支⑧=④+⑦	-19	32
翌月への繰越⑨=①+⑧	21	53

Q2 資金繰り表には記載されているの？

資金繰り表には決められた様式はありません。集計期間も毎月単位で作成する場合もありますし、資金繰りがひっ迫している会社であれば週単位で作成しなければならぬケースもあるでしょう。

図表は、月単位で作成している資金繰り表です。「前月より繰越」に前月から繰り越された月初の残高が記載され、1ヵ月間の収入と支出の実績や予定を加減算し

●収支は営業と財務に分類

収入と支出は、営業収支と財務収支に大きく分類します。財務収支の項目は、金融機関との取引契約に基づいて計上していきます。

営業収支で重要なのは売上予測です。売上の項目は、販売先・商品種別などセグメント別に予測値を積み上げて記載することが一般的です。

次に、売上高を回収条件に合わせて「現金」「売掛金」「手形」な

どに振り分けます。さらに手形については、割引に回す分と期日に資金化する分に振り分けます。仕入に関しては「現金」「買掛金」「手形」などに振り分けられます。例えばサイトが4カ月の約束手形の場合、4ヵ月後の「手形決済」欄に含まれます。残りの項目は、契約書や前年同月の実績などをもとに計上していきます。

Q3 どんな点に留意して資金繰り表を分析すればいいの？

資金繰り表を分析する際の主なポイントは、以下の3つです。

①資金残高の検証

資金繰り表を作成することにより、将来の資金の状況を推測できます。図表を見ると、1月に100の設備支出が予定されており、資金の手当をしなければ翌月への繰越がマイナスとなってしまいます。そこで、借入金を100賄うことで翌月への繰越をプラスにしているのです。

●試算表との整合性を確認

②決済条件の検証

決済条件とは、取引先との間で交わされる代金支払いについての取り決めです。決済条件の変化を確認するには、数ヵ月先に資金化される手形等による回収や支払いの割合について算出します。

売上代金の回収について、手形等で回収する割合が高くなれば、資金化に時間がかかり資金繰りという観点では良くありません。反対に手形等で回収する割合が低くなれば、早く資金化できるため資金繰りに余裕ができます。

仕入代金の支払いについては、手形等で支払う割合が高くなれば資金繰りが楽になり、割合が減れば厳しくなります。

③整合性の検証

資金繰り表は内部資料や予測値に基づいて作成されるため、正しく集計されたものか検証する必要があります。特に売上と仕入については、試算表との整合性や算出根拠を確認したところです。

確認テストを解いてみよう

問題1

資金繰り表について述べた次の①～④のうち、誤っているものを選んでください。

- ① 資金繰り表は、一定期間の収入と支出を集計し、資金残高の推移を把握するために作成する
- ② 資金繰り表には決められた様式はない
- ③ 資金繰り表の集計期間にルールはなく、週単位で作成することもある
- ④ 資金繰り表は売上などの営業収支を把握するものであり、財務収支は記載しないことが一般的である

問題2

企業の資金繰りについて述べた次の①～④のうち、正しいものを選んでください。

- ① 売上代金を手形等で回収する割合が高くなれば、資金繰りは良くなる
- ② 売上代金を手形等で回収する割合が低くなれば、資金繰りは厳しくなる
- ③ 仕入代金を手形等で支払う割合が高くなれば、資金繰りは良くなる
- ④ 仕入代金を手形等で支払う割合が低くなれば、資金繰りは良くなる